

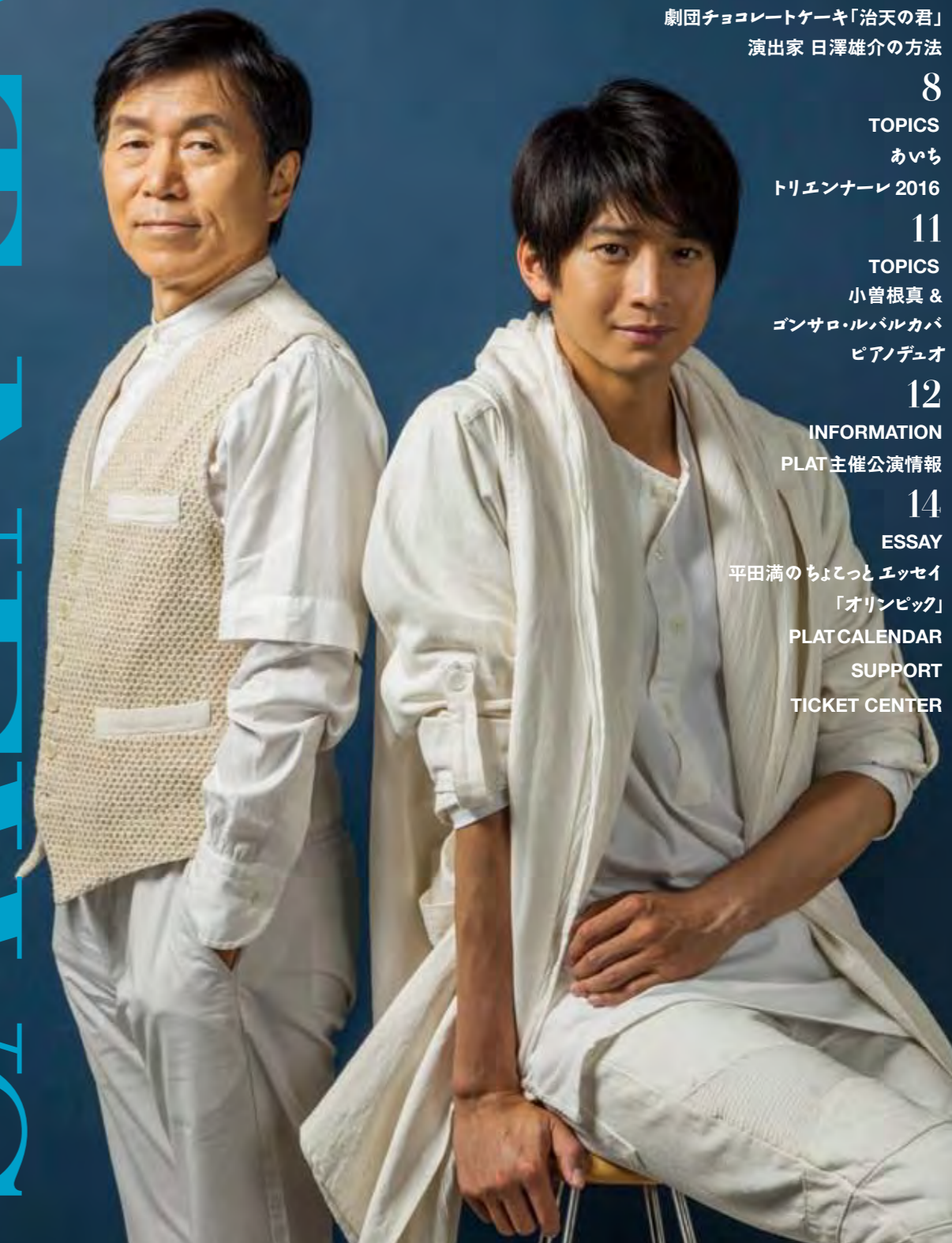
PLAT NEWS

公益財団法人
豊橋文化振興財団情報誌
2016年9月-10月

vol. 21



TOYOHASHI
ARTS
THEATRE
PLAT



平成28年度文化庁助成・音楽芸術活性化事業

小曾根真

MAKOTO OZONE

毎回、新しいジャンルのピアノ、
音楽活動にチャレンジする小曾根真
今回は、キューバの至宝と言われる
ゴンサロ・ルバルカバと
ピアノデュオ・コンサート!

&

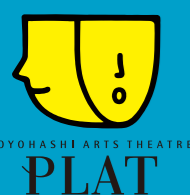
ゴンサロ・ルバルカバ

GONZALO RUBALCABA

ピアノデュオ

主催-公益財団法人豊橋文化振興財団 共催-豊橋市
2016年10月4日[火] 19:00開演 / 18:30開場
穂の国とよはし芸術劇場PLAT 主ホール

PLAT
穂の国とよはし芸術劇場



今、劇作家として最も脂の乗っている蓬萊竜太が、向井理主演に迎え、期待の書き下ろし最新作。作・演出

平田——以前、一緒に『罪』を作った時は小さいとこでしたよね。80人定員の、能舞台みたいなセットで、濃密な感じがとても良かった。

蓬萊——あの時の役のイメージは、いわゆる「家族の長」。初演は破綻していることをわかっていながら父親を演じるが、再演は無自覚に、愚かな部分が増し、家族が思っていることにも自覚的ではないと、解釈を変え、質の違うものができて楽しかった。今回の『星回帰線』でも共同体の頂点に平田さんの役どころがあり、そこに向井くん演じる男が入ることでバランスが崩れていき、長の権威とか、ポジションが脅かされる。『罪』のイメージが残っていて、そうしてポロポロ剥がれるみたいな芝居を平田さんには演ってもらいたくなるんです。

平田——共同体は家庭・家族が基本的で、それが広がったようなもの。何人かいれば指導的な立場と従属的な立場、あるいは仲の良い人と仲の悪い人が出てくるのはしかたがない。

僕も、無自覚なほうが演っていて楽しい。

蓬萊——無自覚なほうがやはり滑稽さが増すというか、その人間の弱点を意識的に演じないほうが面白い。自覚的だと「やな奴だな」となるけど、「憎みきれない部分」というか、「この人気づいてないから辛いんだよ」と、良かれと思っているから言えない、反発することがその人を壊してしまう、無自覚な人はそういう罪深さがあり、それが面白い。

演劇は結局こぼれる瞬間が面白い。今回の決して広い空間とはいえないところでも、そのこぼれるという楽し

みを見せたい。

平田——小さい空間でもそこから想像できる世界はぐつと、ダイナミックになりたい。小さくまとまりましたって、イヤじゃない。

まさに人生の縮図、社会の縮図ではないが、明日何が起きるかわからない。一見、窒息しそうなほど「変わらないよ」と思っている、実は危ういところも歩んでいる。蓬萊——常に世界というのが演劇の一つのテーマで、その奥には世界が広がっていて。結局、そこを描くためにミクロが必要だったりする。演じる時にその人の弱点とか無意識の余地を想像するのは面白いし可能性がある。「こうかもしれない」と書いたのに、いろんな想像力が膨らんでくると「あ、もっとこういうことが考えられる」となる。意識的と限定した時には、あまり広がる余地が無いと最近思います。

平田——ミクロのリアリティというか、共感・実感できる部分がなく、単に頭で言うのと絵空事になってしまう。そういう意味では愚かな方がより血肉が感じられる。

キャスティングが変わると芝居も変わって見えるのは、演劇として正しい。「誰が演っても同じ」では、演る方も観方にもつまらない。最近、この人これでいいの？この人の人生をもうちょっと掘り下げたほうが。というのはお客さんに委ねて「この人ダメなままじゃん」で終わってもいい。図式的にこれでいいのだと記号化されるのも嫌だったけど、今、それは委ねるべきだなと思い始めている。

蓬萊——それは年齢ですか。何かきっかけは。

平田——年齢もあると思う。きっかけとしては来年の新

国立がある。三島由紀夫の、翻訳ものみたいな芝居だけど、ダメな人なのやっぱり。でも「あ、やりたいな」と思った。その人の人生をお客さんに共感してもらいより、ダメならダメと提示する。それを観るほうが組み立てることによって世界ができる。単なる役割ではない、そういう存在で演れたらと思った時に蓬萊くんの話がきて、似た匂いがした。感じるときは感じるもので「あ、これ演りたい」と。

蓬萊——僕も、昔はいろんな登場人物を2時間に収めて、帰結ポイントを大事にしていた時期があった。すると、ドラマが終わったら、生きている人物ではなく、ドラマのために用意された人物になってしまう。ようやく気づいたというか、何を切り取るかが大事で、どこから初めてどこで終わるのか、結局その人たちの人生はずーっと続いていて、いいことがあってもエンドロールが流れるわけではなく、ダメなことがあっても続くし、生きることからは逃げられない。最近はそういうイメージが渡せればよくて、ドラマが帰結しようがなかりうが生きていくほうが、奥行きが出るという気がします。

平田——「この人物これからどうやって生きていくのだろう、可哀想すぎるよ」とか、いわゆる余韻が残る芝居とか映画は、いつまでも覚えている。

蓬萊——通り一遍に悪いと描かれ、ラストも悪いまま終わったとしても、セリフにはないが、酒だけはあいつ注いでいた、ティッシュは取ってあげていたな、そういう部分が挟み込まれるだけでその人はただ単純に悪いではない何かがあった、そういうことを想像して作ったほうが生々しくなる。それはホントにしょうもないことでいい。

平田——あとおんなじことをやっているのにタイミングのいい人と悪い人。あるいは一言を非常にタイミングよく言える人とで、全く違う反応が出る。

作家とか演出家とか、あるいは俳優もアイデアを出すけど、そういう人間味が出ることによって生きてくる。役者にとっては大変な作業だと思う。「こうやって生きてきた人なんだ」とスタートするのは楽だけど、でも、本来しなくてはいけないこと。

蓬萊——楽日までそういうことを考え続けるのが演劇。それを楽しいと取るか苦しいと取るかだと思います。台本以上に演ったり試したり、発明しあったり、それを稽古でやれたらいいなと思う。

僕は自分が演出するときには、役者とねちっこくやりたい。それに耐えうる設計図を持ち込み、役者とディスカッションし、悩むというより発明する面白さ、作ることを味わうためには、場面転換や、ダイナミズムよりは、役者で見せる芝居を作りたい。

平田——僕、だから演りたいと思った。役者だから、役者が生きているかどうかがまず大事。そこからだんだん入って、実はストーリーは、その次だったりする。

蓬萊——人間が生々しく生きていると、どんなに平凡なストーリーでも、スリリングに見える。そういう芝居はいいなと思います。誰とやり作ったかということが大事な作品にしたい。キャスティングは、こういう人たちが集まったら面白い作業になるというのを優先させていただいた。やりたいことを楽しめる役者。そういうことが好きでない限りただの苦行になってしまう。

出演

向井理

年に1本は舞台をやりたいと思いつながら、気がつけば前回から3年が経っていました。3年ぶりの舞台が、何年も前からずっと一緒にお仕事をしたいと話していた蓬萊さんの作・演出で叶うということで、自分にとっては本当に念願の舞台です。

蓬萊さんの作られる、日常の延長の中の会話で世界が動いていくのにどこか違和感があって、いつの間にか日常がゆるやかに破壊されて、また再生されていくような独特の世界観が面白くて、出来上がった作品からは、役者と演出家为抓手り組んで稽古を積み上げたことが伝わってくる土臭さというか…いつかこの世界の中に入ってみたいと思っていました。

今回、登場人物7人と決して多くはない出演者でどういう世界を舞台上に作り、そして壊し、また新しい芽を出せるのか、僕自身もすぐくわくくしながら稽古に挑みますので、ぜひ、劇場に足を運んで、確かめていただけたらと思います。

蓬萊竜太[ほうらいりゅうた]／1976年生まれ、兵庫県出身。99年に劇団「モダンスイマーズ」の旗揚げに参加。27年の全劇団公演の作・演出を務める。主な劇団公演に「悲しみよ、消えないでくれ」(15)、「嗚呼いよ、だから愛。」(16)など。映画の脚本に「ザ・クイズショウ」(08／NTV)、「コールドケース」(16／WOWOW)ほか。劇団外の舞台作品として、「スコット&ゼルダ」(15／上演台本)、「母と感星について、および自転する女たちの記録」(16/作)など。2009年、「まほろば」(08・12／栗山民也演出)で第53回岸田國土戯曲賞を受賞。人間に対する深い洞察力をもって、骨太でかつ繊細、かろやかな筆致で産み出される作品の数々で、今後の活躍が舞台、映像にとますます期待されている。

平田 満[ひらた・みつる]／1953年生まれ、豊橋市出身。つかこうへい事務所にて俳優活動をスタート。映画・テレビ・舞台などに数多く出演。映画『蒲田行進曲』で日本アカデミー賞など受賞。主な舞台に『熱海殺人事件』『ART』『海をゆく者』など。『海をゆく者』『失望のむこうがわ』で第49回紀伊國屋演劇賞受賞。2005年よりアル☆っカンパニーを設立。『ゆすり』『罪』『家の内臓』『冬の旅』『失望のむこうがわ』『父!』などを制作。

11/2日 [水]19:00 開演

11/3日 [木・祝]13:00 開演

作・演出＝蓬萊竜太

出演＝向井理、奥貫薫、野波真帆、

高橋努、岩瀬亮、生越千晴、

平田満

会場＝PLAT 主ホール

向井理の熱い思いから

蓬萊竜太の作・演出で濃密な作品を目指す。

星回帰線

ほしかいきせん



木ノ下裕一[きのした・ゆういち]／木ノ下歌舞伎主宰。1985年7月4日、和歌山生まれ。小学校3年生の時、上方落語を聞き衝撃を受けると同時に独学で落語を始め、その後、古典芸能への関心を広げつつ現代の舞台芸術を学ぶ。2006年に古典演目上演の演出や補綴・監修を自らが行う木ノ下歌舞伎を旗揚げ。『義経千本桜』(12)、『黒塚』(14)、『東海道四谷怪談―通し上演―』(14)、『三人吉三』(14、15)、『心中天の網島』(15)。2015年に再演した『三人吉三』にて読売演劇大賞2015年上半期作品賞にノミネートされる。その他古典芸能に関する執筆、講座など多岐にわたって活動中。

はうまい。うわーっと盛り上げたかと思うと、全部つじつまが合うという演出がすごくいい。歌舞伎も幕府の批判や、同時代の出来事が入り、メッセージ性が強いが全体的には娯楽です。娯楽と批評が渾然一体に入っている。それを邦生さんはうまくすくい取り、作品を作ってくれる。勸進帳というエンターテインメントの芝居に、境界線という批評性の高いテーマをどう入れ込んでくるかが一つの見どころだと思います。

—木ノ下さんは監修と補綴となっていますが、実際にどのような役割をされていますか。

木ノ下—僕も歌舞伎好きなので「この演目はこういう演目」とかいわゆる既成概念がある。でも現代の演出家はじゃんじゃん壊してくれる。「こんなんどうですか」と持っているのが面白かったり、発見もあつたりする。その爽快さに味を占めると、自分で演出しようとはならない。この演出家でこの演目をやればきつとこうなると考えてプロデュースするのが仕事の一つです。

次に研究です。その演目がどういう歴史を経て、解釈を変えながら現代まで受け継がれたか。勸進帳だって、今でこそ主人と家来の忠義の話ですが、その色合いが強くなるのは明治以降です。

作品によっては同じ演目でも台本のバリエーションが違う。それを照合しながら、この演出家にはどういう解釈がいいか。その時にこのシーンはどこから持ってこよう、ないから自分で書こう、あるいは全部カットしよう。補綴とはそういう台本の編集作業です。

あとは、演出家の相談役です。日本でも普及し始めたドラマトルクという仕事、これは演出家のパートナーという意味合いで使われています。

—問答とか六方とか、勸進帳の名場面はどのような扱いをされるのでしょうか。

木ノ下—作っている最中なので、なんとも言えませんが、無視することはありません。それを現代的な手法で変えるか、あるところは歌舞伎を踏襲する瞬間もあるかもしれない。大きく変えるにも大きく変える理由があるし、変えない時には変えない理由があり、徒や疎かに名シーンを扱わない。つまり、大事にしながら扱うということです。

劇で挑んでみたい。杉原邦生さんはタグを組んだ回数が一番多い演出家です。木ノ下歌舞伎の卒業を控え、もう一度キングオブ歌舞伎に二人でどこまで勝負できるか挑んでいきたい。

勸進帳を見て、富樫という関守がなぜ義経・弁慶を通したのか、弁慶の行為に胸打られたという説明はつく。でもどう打られたのかという細やかな感情の機微が表現できていいのにはと思います。

関所とは、しいていうなら国同士の検問所、何かと何かの境界線ということです。弁慶たちがその「境界線を越える」というキーワードで、読み直します。例えば弁慶と富樫は、相反する立場ですがどこかで分ち合うものがある。義経と弁慶も主人と家来です。それが、身分の低い強力で義経が化け、強力より身分の高い山伏に弁慶が化けるという立場の逆転があり、義経を助けるために弁慶があえて義経を棒で殴る有名なシーンの後に、義経が「判官、御手をとり給い」と弁慶に手を差し伸べるシーンも主従関係という境界線を越えている。そういう境界線を越えるという現代的なテーマで勸進帳ができないかと思っっています。

—演目ごとに演出家が変わるのはなぜですか。演出の杉原さんに期待することは。

木ノ下—歌舞伎と一つのジャンルのようにくり返しますが、江戸300年の間にいろんな歌舞伎が生まれ、分類すると12種類ぐらいの演劇が、歌舞伎にカテゴライズされています。多面体みたいな歌舞伎に多面的に挑もうと思えば、いろんな演出家の視点・手法が必要だと思います。

日本では、「これはエンタメ」とか、「これは前衛的」と、分かれています。例えばジャニーズの芝居を見る方は『治天ノ君』は見に行かない。でもエンターテインメントなものも批評性を帯びたものであるべきです。そこが邦生さん

新しい演出家と出会ったり、時には今までの演出家ともう一回タグを組んだりしていきたいと思っています。

—演劇の普遍性みたいなものと古典芸能とはどういう関係がありますか。

木ノ下—今の日本のいわゆる現代劇と、日本の古典には断絶がある。現代劇と地続きで繋がらない感じがあったくない。

60年代70年代のアングラ演劇とか舞踏は、西洋から来た演劇ではなく、日本の土着的な身体とか日本語や、歌舞伎の演目に着目した。芝居小屋的な日本の祝祭的な演劇空間を作っていました。

同様に、断絶がある僕ら若い世代でも、古典に取り組むと、血が騒ぐ瞬間があります。例えば、稽古の始めに俳優さんと一緒に歌舞伎のDVDを見ながら、身体のフリとか声とかセリフとかを完全コピーしてから、崩していく。初めての俳優さんは、DVDを退屈そうに見ていたのに、何回も見ていくと「義太夫かっていい」と言い始める。これだけ西洋化しているのに、あのリズム・あのテンポ、西洋音楽じゃない抑揚に血が騒ぐ瞬間に、ふと「あゝ日本人だな」と感じたりします。

—木ノ下さんにとって勸進帳とは、また勸進帳は現代にどう繋がりますか。

木ノ下—勸進帳は十八番といわれるキングオブ歌舞伎です。完璧に見える。配置も含め型が美しいし、セリフの抑揚とか、緩急とか、バックの長唄とか、ホントに美しく、入り込める余地が一見なさそうです。だからこそ現代

—旗揚げから10年となりました。そのきっかけと、なぜ歌舞伎だったのですか。

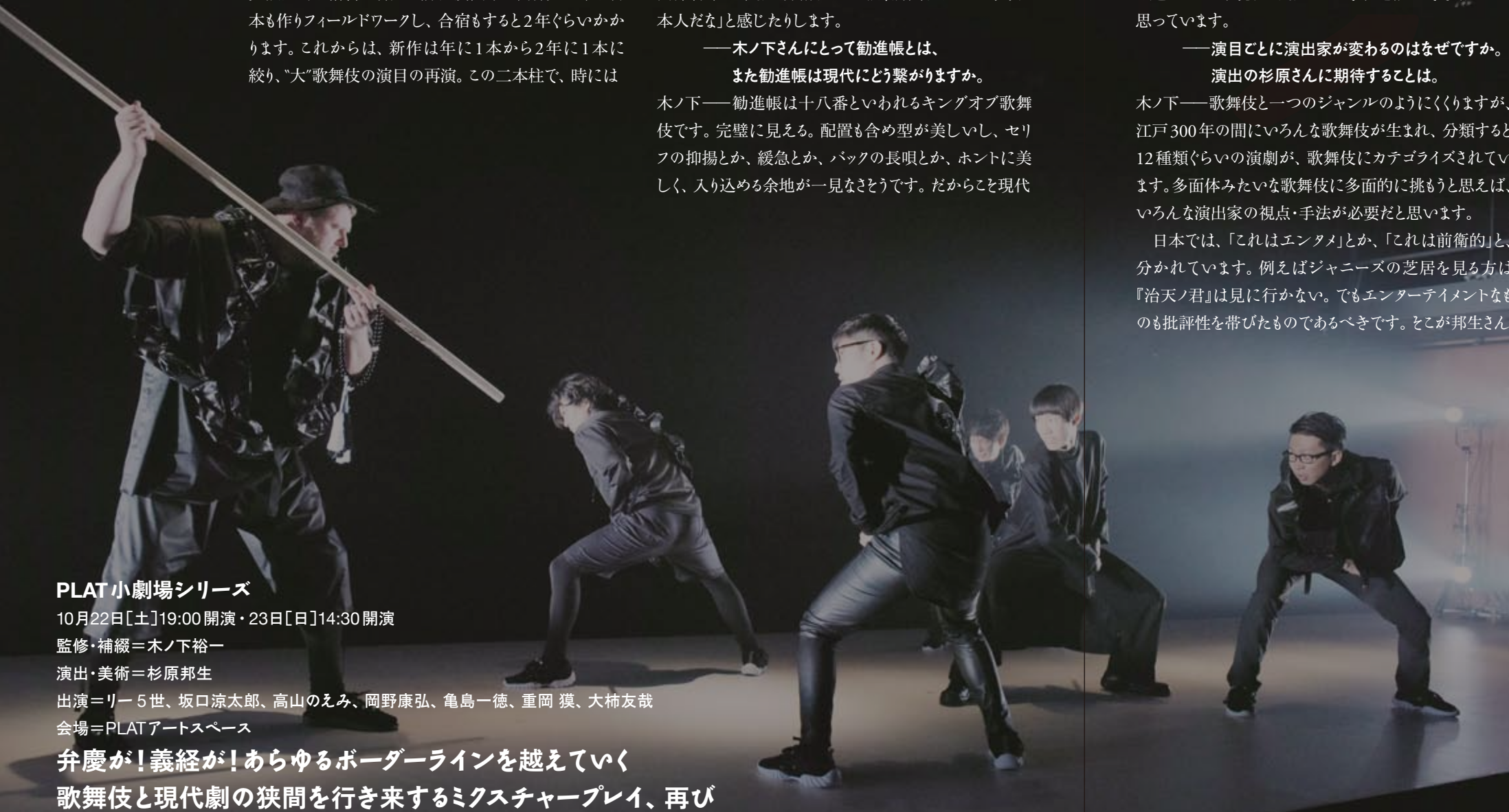
木ノ下—子供の頃から古典芸能が好きで、見たり聞いたりしていましたが、古典が縁遠くなっていると感じていました。海外の古典を扱うことは僕らの世代の演出家にはよくあるけど、日本の古典を扱うことは少ない。演出家が自分の国の舞台芸術に取り組むことは、それだけで意味がある。歌舞伎は敷居が高いが、木ノ下歌舞伎を経て歌舞伎に行けたら面白いのではないかと、演出家・俳優とお客さんを古典に繋げたい。

—10年目に「大歌舞伎」と銘打って2年かけて試みたいことは。

木ノ下—いわゆる松竹以外の歌舞伎は、農村歌舞伎だけ。「おおかぶき」は本家の歌舞伎にしかつけないので、あえて「木ノ下大歌舞伎」にしました。

この10年間、特に後半の5年は木ノ下歌舞伎を認知してもらうことに力を入れた。それはそれで意味がありましたが、やはり一作品作るのに時間がかかる。演目の研究調査や、稽古が始まる前に演出家と会議を重ね、台本も作りフィールドワークし、合宿もすると2年ぐらいかかります。これからは、新作は年に1本から2年に1本に絞り、「大歌舞伎」の演目の再演。この二本柱で、時には

歴史的な文脈を踏まえつつ
歌舞伎演目上演の可能性を発信する
監修・補綴 木ノ下裕一



PLAT小劇場シリーズ

10月22日[土]19:00開演・23日[日]14:30開演

監修・補綴＝木ノ下裕一

演出・美術＝杉原邦生

出演＝リー 5世、坂口涼太郎、高山のえみ、岡野康弘、亀島一徳、重岡 獏、大柿友哉

会場＝PLATアートスペース

弁慶が!義経が!あらゆるボーダーラインを越えていく
歌舞伎と現代劇の狭間を行き来するミクスチャープレイ、再び

木ノ下歌舞伎 勸進帳

—なぜ、劇団チョコレートケーキ
という名前にしたのですか。

日澤—「大学卒業一年前のタイミングで、劇団の名前をつけなきゃ」と話していた時、喫茶店のおすすめメニューが「チョコレートケーキ」「これでいんじゃね？」が本当の理由。一年経ち、いよいよ本格的になった時、僕もですが、他にも甘いモノを嫌う男がいて、でもチョコレートケーキは何故か食べられる。「誰にでも愛される劇団」という後付けのコンセプトで今に至っています。

もともとは名前に、マッチした芝居をしていましたが、元いた作・演出家が辞めるとなった時、もう劇場を抑えてあり、6ヶ月を切っていた。キャンセル料は当時の劇団の体力からすると払えない。どうしようかとなった時、今脚本を書いている古川健くんが「みんなで短いものを4本書けば、それを一つの街で1日に起こった出来事として作るから、みんなで書こう」「よしわかった」となったが、誰も書いてこない。

結局古川が一人で書き、これが幸か不幸か、評判が良かった。「書けるんじゃないの」「もう1本書いて」という話になりましたが、「書くのはいけど演出はやれないよ」と言う。「じゃあ僕が演出をやしましょう」という形で今の体制がスタートしました。

—演出家の日澤さんは出演していませんが
脚本の古川さんは出演していますね。

日澤—古川は脚本を書き上げれば仕事が無いので俳優として出て、最初は僕も役者として出てたが、演出やりながらは無理なのと、周りからも演出をやっているんだから出る的な空気もあり、自分が出ていと客観的に自分の演技を判断できない。そこから自分の演出作

品ではやめようとなりました。

僕も古川も、俳優としてスタートしている。それで、古川にとって作劇は、苦痛な辛い作業です。少しでも楽に書けるかを考えた結果、彼は、書くのは嫌いだ、歴史物を読むのは好きなので、歴史に即した演目なら少しは楽に書ける。今は古川が「こういうの演りたいね」と興味のあるものを持ってくる。浅間山荘事件とか、第一次世界大戦のサラエボ事件という、バルカン半島で起こったオーストラリアの皇太子を爆殺したという第一次世界大戦の引き金になったような事件の作品を書いたり、今回の『治天ノ君』という、大正天皇を題材にした作品だったり、日韓問題とか、そういうところに食指が伸びていきました。

演出 日澤雄介の方法

社会的な題材を扱うことで得られるリアルテイ、独自の構成、フィクションを織り交ぜ劇作品を演出する。

—突然の演出を始めたということですが
どのような演出を心掛けていますか

日澤—古川の脚本は、歴史物ということで難しいというか、情報が多。例えば1900年に何がどう起こった、ですとか。歴史を知らないお客さんにもわかるように、情報を落としていかなければいけない。それを普通に演っても全然おもしろくない。「これはどうしたものだろう」と考えた時、情報は脚本に任せ。僕は台本に目を向けるより、それをお客さんに伝える俳優に目を向けるべきだと思います。難しいセリフをお客さんに伝えるにはどういうふうに人と会話をしなければいけないのだろうと。情報ではなく演り方ですね。僕は古川が持ってくる題材は、初め全くわからない。台本を読んでからのスタート。この状態で面白いと思わせなければいけない。情報は入れないように、古川にも聞かないようにして、おもしろく見せられる方法を探しています。

今は俳優さんにしか目に入っていない、出演者が二人であればその関係性とか、会話や呼吸というものに、興味がある。

—近年の作品は、ちょっと昔の社会情勢を
取り上げたものが多いですね。

日澤—古川という才能があり、得意だというだけではなく、他の団体がタブーというか、扱いつらいであろうものを、演るようにしています。いわゆる戦略という面で、古川の興味がある題材がうまくマッチしている。浅間山荘事件とか、日韓問題とか天皇であるとか。そういう流れの中でお客さんから「もっともっと」とくるわけです。これもその期待には応えたい。

日本人の最大のタブーといえばやはり皇室。ここは避

けては通れない。東京の小劇場は、いわゆる外への発信力が弱い。そういう空間だからこできる作品作りを僕は目指している。そういう中で天皇を一步踏み込んで演ろうという話が持ち上がり、この『治天ノ君』という作品が出来上がった。天皇を題材にと言った時、古川が「僕が書くのであれば大正天皇がいい」ということで彼が大正天皇を選び出した。

歴史を観てもらおうというより、歴史の中にいた一人の人間の半生というか、どういうふうにとその世界を見ていたのだろうかということをお客さんと共有したいのです。

—この先の劇団チョコレートケーキ
もしくは日澤さんの展望・希望は。

日澤—今回『治天ノ君』でいろんなところを回らせていただいて、その前の、近藤芳正さんとの合同公演『ライン(国境)の向こう』では地方3ヶ所ぐらい回らせてもらいました。東京ではない地域の方々と交流を持てるのは素晴らしいなと思いました。単純に劇団として、もしくは作家・古川、演出・日澤、役・俳優たちが鍛えられる。いろんな地域でやることによっていろんな刺激がもらえたり、地域によっては「静かすぎて面白くないぞ」と言われたり、「もっとこうしたらいいんじゃないの」と言ってもらえたり、劇団としても財産です。

僕らを観ていただけてない方にもぜひとも顔と名前も知っていただき、作品を観ていただきたい。演劇は時間もお金もかかる、ドラマみたいに場面転換もバツパできない、不自由なところもたくさんある。けれど、人の目の前で話ができ、顔を見ながら演技ができるのは、最大の強みであり魅力だと思う。いろんなところで公演をやらせてもらい、いろんな人と会いたいですね。

PLAT 小劇場シリーズ

10月1日[土]19:00開演・2日[日]14:30開演

脚本=古川健

演出=日澤雄介

出演=松本紀保、西尾友樹、岡本篤ほか

会場=PLATアートスペース

脳を患っていたと存世中にも公然と噂された悲劇の帝王
置き去りにされた人間『大正天皇』の本当の姿とは？

劇団チョコレートケーキ「治天ノ君」

INTERVIEW:2

日澤雄介[ひさお・ゆうすけ]／東京都出身。演出家、俳優。2000年に劇団チョコレートケーキを旗揚げし主宰を務める。俳優として内外に出演する。第17回公演『サウイフモノニ…』より出演家として本格始動。劇団公演のほかにトム・プロジェクト、流山児★事務所、On7、オフィスコッターネなど外部演出を行う。若手演出家コンクール2012最優秀賞受賞。『起て、飢えたる者よ』『治天ノ君』で第221回読売演劇大賞優秀演出家賞受賞。トム・プロジェクト所属。

無限の想像力を結集する
創造の旅が豊橋にもやってくる。

—あいちトリエンナーレが今年は豊橋でも開催されることになりました。パフォーミングアーツ担当キュレーター唐津絵里さんと、現代美術の豊橋担当アシスタントキュレーター加藤慶さんに、豊橋地区の見どころをお聞きしました。

唐津—あいちトリエンナーレは2010年に始まり、3年に1度、愛知県で開催する国際的な芸術祭です。現代美術に加えてダンス・オペラといった、パフォーミングアーツのプログラムが同時開催され、その規模がそれぞれ非常に大きく、多分世界的に見てもあまりない規模になります。街の中での展示や普及教育のプログラムも充実し、地域の芸術環境の整備まで射程に入れているのも特徴と思っています。

名古屋市を中心に豊橋市・岡崎市と3市で広く展開し、今年は写真家で文化人類学者でもある港千尋さんが芸術監督を務められ、テーマが「虹のキャラヴァンサライ 創造する人間の旅」。旅の商人と創造活動をする人間の営み、アーティストの活動、そういったものを重ねあわせて広大で、深いテーマだと思えます。

唐津—豊橋を中心としたパフォーミングアーツのプログラムとしては、オープニングにあわせ、名古屋市と豊橋で大人と子どもと一緒に楽しめる、ブラジルのカンパニーダニ・リマのダンスパフォーマンス『Little collection of everything』の公演を行います。豊橋に日系ブラジル人の方が多くお住まいだということで選ばれました。

ダニ・リマさんは文化人類学的なアプローチで研究されているジャーナリストで、子どもたちが持つ特有な発想を作品に取り入れ、これを観ることによって、今まで思っていたことが固定概念であったことに気づき、子どもたちはもともと持っているものが自由に飛躍し、大人になるに連れて忘れてしまったものに気がついていくという、どちらが見ても味わいがあり、楽しめる作品です。例えば、いろんな品物が散らばっている。コレクションとは分類の意味ですが、赤と言ったら赤のものを、また、Aから始まるものを並べて、それがお誕生日に使いたいものとか、月に持って行きたいもの、というように飛躍し、いろんな想像力が湧いてくるという作品です。

スペインのカンパニーアニマル・レリジョンの『Chicken Legz』は豊橋公園で行います。コンテンポラリーのサーカスから出発しますが、もちろん身体表現があり、そこに生の音楽・演奏や、サーカスのアクロバットも入り、フォークリフトも入る。初演の時は馬が出てきたり鳥が出てきたり、場所にリサーチをし、公園の歴史とか街を作品の中に取り入れ再構築していくといきます。初演の場所がもともと農場だったので、動物がいるという状態が自然で、普通サーカスだと動物を調教しますが、それは不自然なことというスタンスです。

一人がフィジカルシアターというかバーストアクロバットの専門で、一人が音楽家という、二人のアーティストによるカンパニーです。それ以外にもアクロバット・ジャグリングや天文学と関心が広く、その全てを合わせたような作品で、そのまま訳すと「アニマル宗教」と、すごいカン



6 **PLAT会場**
穂の国とよはし芸術劇場 PLAT
ダニ・リマ『Little collection of everything』/アートスペース
/8月17日[水]・18日[木]
15:00開演/8.10頁参照

大巻伸嗣/交流スクエアに7mの花柄の壺を展示。



1 **ウダム・チャン・グエン**/トランスナショナルな経験を基軸に、振り付けを加えたパフォーマンスの映像、彫刻、インターネットや



3 **水上ビル会場**
ラウラ・リマ/鳥が建物内部の空間に放たれ、「鳥のための空間」に入るとき、人間と鳥の関係性、その視点はがらりと転換する。③
ヨルネル・マルティネス/テキストや詩を用いたドローイングやインスタレーションで公共の場への介入を試みる。ライター、詩人、アーティストの実験的取り組みを発表するためのプラットフォームを行っている。
イグナス・クルングレヴィチウス/視覚芸術と音楽を行き来し、権力に関わる心理や、テクノロジー・デバイスがもつ政治的側面を探求している。



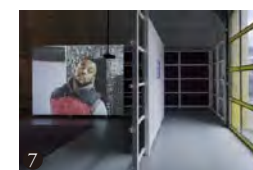
4 **グリンナラ・カスマリエワ&ムラトベック・ジュマリエフ**/6F/巨大な産業廃棄物を載せたトラック

スマートフォンを介したインタラクティブなドローイング。

ジョアン・モデ/8.10頁参照

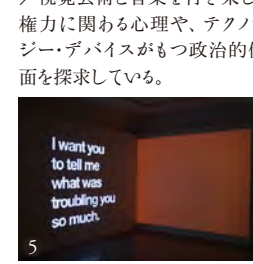
8 **豊橋駅前大通会場**
はざまビル大場
リビジウガ・カルドゾ(レアンドロ・ネフ)/1F/社会科学と視覚芸術を行き来し、ふたつの境界を融解させ、型にはまらない新たな知の生産を試みる。⑥

9 **ウェンデルリン・ファン・オルデンボルフ**/2F/映像とインスタレーションを通して、人と人との社会的関係を探求。台本もしばしば一般参加者との協同により書き進められ、プロジェクトの最終形に影響を与えている。



7 **岡部昌生**/8F/記憶や歴史の痕跡をテーマに、豊橋と長野を結ぶ飯田線の歴史にまつわるフロッタージュを発表。

10 **小林耕平**/6F/人間とモノ、意識と物質、主体と客体、その相反する両者の関係性を映像や彫刻作品として展開。『東海道中膝栗毛』の宿場町取材し、現代の滑稽を表現したインスタレーションを展開。



11 **グリナラ・カスマリエワ&ムラトベック・ジュマリエフ**/6F/巨大な産業廃棄物を載せたトラック

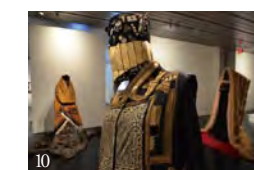
開発ビル
石田尚志/10F/身体軌跡として生成される筆の線は長尺の紙や映像・アニメーションなどで植物のように増殖し、運動する。「絵巻」を素材に、豊橋の旧劇場施設の空間を活かす。



8 **佐々木愛**/9F/三河地方からはじまり、各地に広がる古の交通・交流を題材に砂糖細工の技法で緻密に編み出される細やかな線からは、優くも甘い、ひとときの夢をみる。



9 **ニコラス・ガラニン**/8F/アメリカの先住民族の美術技法を受け継ぎながら、同時代の文化や表現を絶妙なバランスで取り入れ文化を表象することの意味を軽やかに問いかける。



10 **岡部昌生**/8F/記憶や歴史の痕跡をテーマに、豊橋と長野を結ぶ飯田線の歴史にまつわるフロッタージュを発表。



11 **小林耕平**/6F/人間とモノ、意識と物質、主体と客体、その相反する両者の関係性を映像や彫刻作品として展開。『東海道中膝栗毛』の宿場町取材し、現代の滑稽を表現したインスタレーションを展開。



12 **グリナラ・カスマリエワ&ムラトベック・ジュマリエフ**/6F/巨大な産業廃棄物を載せたトラック

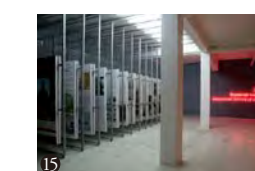
が行き交う場所は、かつて組織物を運ぶために作られたシルクロード。そこで生活する人々の姿を捉えたドキュメンタリー映像。



13 **久門剛史**/5F/4部屋の展示室に広がる大規模なインスタレーション。静寂と闇、光と音の現象が反復する空間は、訪れる者を未知なる異世界へと誘う。



14 **ハリル・ラバー**/5F/美術と建築をベースに、歴史、アイデンティティ、文化といった概念について考察を重ね、1990年代半ばから、バレスチナの政治、社会状況を題材に、現代社会への問いを発表し続ける。



15 **ハーバード大学感覚民族誌学ラボ**/2F/アメリカの遠洋漁業の過酷な労働現場を。最新の撮影技術をつかって撮影された荒れ狂う海の迫真的な映像に圧倒される。



16 **豊橋公園**
アニマル・レリジョン
『Chicken Legz』
10月8日[土]—10日[月・祝]
14:00/8頁参照

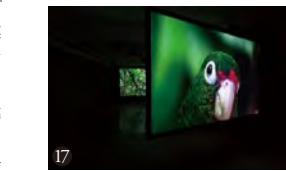


17 **コラムプロジェクト**
鳥の歌
メッセンジャーの系譜学
Bird Song: A Genealogy of Messengers
8月11日[木・祝]—10月23日[日]
/穂の国とよはし芸術劇場 PLAT
鳥と縁の深いアーティストたちによる作品に、東海地方の遺跡から出土する鳥の蓋紐をもった須恵器、音楽と結びついた鳥にまつわる資料などを紹介。人はいつか鳥に何を感し、何を託してきたのか。

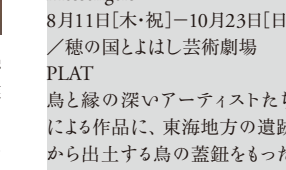
豊橋市公会堂
石田尚志『絵巻・絵巻/プロジェクト』
8月11日[土]19:30~20:15

Film Program 短編集1
9月30日[金]19:00
ジョルジュ・シュヴィッツゲベル『魔王』/山村浩二『サチの「パレード」』/アネエス・ヴァルダ『キューバのみなさん、こんにちは』

アローラ&カルサディーラ
10月8日[土]—10日[月・祝]
軍事・政治的な衝突や緊張を、徹底的なリサーチと卓越した解釈、創造的跳躍によって、映像・彫刻・パフォーマンス化。一貫するのは、周縁的、個別・具体的な立脚点から、普遍的なテーマや問題に迫る正確な洞察力である。



17 **コラムプロジェクト**
鳥の歌
メッセンジャーの系譜学
Bird Song: A Genealogy of Messengers
8月11日[木・祝]—10月23日[日]
/穂の国とよはし芸術劇場 PLAT
鳥と縁の深いアーティストたちによる作品に、東海地方の遺跡から出土する鳥の蓋紐をもった須恵器、音楽と結びついた鳥にまつわる資料などを紹介。人はいつか鳥に何を感し、何を託してきたのか。



16 **豊橋公園**
アニマル・レリジョン
『Chicken Legz』
10月8日[土]—10日[月・祝]
14:00/8頁参照



18 **グリナラ・カスマリエワ&ムラトベック・ジュマリエフ**/6F/巨大な産業廃棄物を載せたトラック

虹のキャラヴァンサライ—創造する人間の旅
あいちトリエンナーレ
2016
8.11—10.23
AICHI TRIENNALE 2016 rainbow caravan

【お問い合わせ先】 国際展チケットに関するお問い合わせ/あいちトリエンナーレ入場券管理センター TEL:052-952-7635(10:00-18:00/土日祝休み/会期中は無休)
あいちトリエンナーレ全体、舞台芸術に関するお問い合わせ/あいちトリエンナーレ実行委員会事務局 TEL:052-971-6111(8:45-17:30/土日祝休み)

①[Echoes-Infinity]『MOMENT AND ETERNITY』Third Floor-Hermis Singapore 2012 Created with the support of the Fondation Hermis for Third-Floor Hermis Gallery -Singapore 2012.②[Waltz of the Machine Equestrians - The Machine Equestrians #12] 2012 photo: Uid Dam Tran Nguyen③[Fuga(Flight)] 展示風景 A Gentil Carica, リオデジャネイロ 2008 photo: Laura Lima (Ana Torres)④[P350]プロジェクション 2014-2015 (INTERROGATION(再演)) 展示風景 Oda Kanamori, ノルウェー 2009⑤[Agropop Abyssal] フラワーの展示風景 インスペクション、パフォーマンス、ロックパフォーマンス Zachea National Gallery, ワルシャワ 2013-2014 photo: Leandro Neri⑥[From Left To Right] 展示風景 The Showroom, ロンドン 2015 photo: Daniel Brookes⑦[能る能く橋子] 2013 Courtesy of Taka Ishii Gallery⑧[ここからの声] [4]ひとつの森へ』メルセン・経典美術館 2009 photo: 山本 純彦⑨[No Pigs in Paradise] 2016(Courtesy of Anchorage Museum, Alaska)⑩[から] 展示風景 Alaskan ⑪[から] 展示風景 Alaskan ⑫[から] 展示風景 Alaskan ⑬[から] 展示風景 Alaskan ⑭[から] 展示風景 Alaskan ⑮[から] 展示風景 Alaskan ⑯[から] 展示風景 Alaskan ⑰[から] 展示風景 Alaskan ⑱[から] 展示風景 Alaskan ⑲[から] 展示風景 Alaskan ⑳[から] 展示風景 Alaskan ㉑[から] 展示風景 Alaskan ㉒[から] 展示風景 Alaskan ㉓[から] 展示風景 Alaskan ㉔[から] 展示風景 Alaskan ㉕[から] 展示風景 Alaskan ㉖[から] 展示風景 Alaskan ㉗[から] 展示風景 Alaskan ㉘[から] 展示風景 Alaskan ㉙[から] 展示風景 Alaskan ㉚[から] 展示風景 Alaskan ㉛[から] 展示風景 Alaskan ㉜[から] 展示風景 Alaskan ㉝[から] 展示風景 Alaskan ㉞[から] 展示風景 Alaskan ㉟[から] 展示風景 Alaskan ㊱[から] 展示風景 Alaskan ㊲[から] 展示風景 Alaskan ㊳[から] 展示風景 Alaskan ㊴[から] 展示風景 Alaskan ㊵[から] 展示風景 Alaskan ㊶[から] 展示風景 Alaskan ㊷[から] 展示風景 Alaskan ㊸[から] 展示風景 Alaskan ㊹[から] 展示風景 Alaskan ㊺[から] 展示風景 Alaskan ㊻[から] 展示風景 Alaskan ㊼[から] 展示風景 Alaskan ㊽[から] 展示風景 Alaskan ㊾[から] 展示風景 Alaskan ㊿[から] 展示風景 Alaskan

パニー名ですが、忘れられている人間の身体が持つ本能を動物が持っているといったアプローチから、比喩的にフォークリフトが出てきます。現代アートなので深いテーマを持ってはいますが、楽しんでいただける、躍動的でエネルギーでスペクタクルです。

加藤—同じ日に公会堂では、アローラ&カルサディーラというビジュアルアートの音楽パフォーマンスがあります。その他、豊橋ではイベントも入れると19組の作家が展示を行います。その内、ブラジルのアーティストが4組参加します。

ジョアン・モデという作家の『NET Project』はひもを結ぶだけなのですが、多くの人々が参加し、いつもと違った景色、日常を味わえます。子どもから大人、おじいちゃんおばあちゃんも参加して大きいネットができ、PLAT前の広場で展示する、2ヶ月半の参加型プログラムです。

豊橋は花の生産地でもあるので、大巻伸嗣は、PLATの交流スクエアに花柄の7mにもなる大きな壺を展示します。

公会堂では月1回プログラムを行います。8月11日の石田尚志のプロジェクションマッピングは、開幕にふさわしい大きなイベントになると思います。

水上ビル、開発ビル、はざまビルでも展示を行います。開発ビルでは佐々木愛が、三河の交通や交流の文化をテーマにして15mぐらいの壁画にしていこう。

はざまビルでは、ブラジルの作家リビジウンガ・カルドーン通常レアンドロ・ネレフがDJブースを設置。サウンドパフォーマンス、サウンド・アートを展開して街の人

達とも一緒にコミュニティを作りたいという考えがある。街の人達がどういふ反応をするのか、アマゾンのようにパーティーができるのか、可能性にかけてみたい。いろんなことを実験的に、例えば部屋を全部砂場にした、動物を持ってきたいとかいっぱい、無理難題もあるんですけど。

また、ラウラ・リマという水上ビルで行う作家も動物を扱います。今回は鳥100羽ほどと一緒に生活をし、人間だから美術が好きではなく、それは人と動物を超えたものということ踏まえた上で境界を曖昧にしてしまう。鳥小屋に入るといふインパクトが重要で、そこからいろいろと考えることが浮き上がってくる。

アニマルの話をするみんな「えっ?」みたいな、「フォークリフトが、なんで?」みたいな、普通に考えれば安全の問題でなかなか使うことは出来ない。でもそれをまた軽々超えてしまう。それが多分今回のテーマの創造の旅にふさわしい部分でもある。

唐津—アニマルの『Chicken Legz』という作品は2年前の初演ですが、それ以来話題になり、やりたいという話が世界中からきているが、コストもかかり、実はどこでも実現ができなくて、それ以来始めてなのです。

加藤—場の問題、法規的な問題もあるし、ラウラも同じです。鳥の管理とか、街の人が協力してくれないと進まないプロジェクトがある。国際展だからできることです。

唐津—街ぐるみ、県だとか市だとか、いろんな人の協力が必要。最初は「無理ですよ、でもこういうの面白かったですよ」と、提案した。そういう意味でも貴重です。

特別連携事業

まちとつくる演劇

アーティストが豊橋に滞在、一般市民と共に創作、発表する演劇・音楽公演。展示会場を巡りながら鑑賞や体験できる移動する形のパフォーマンス。会場:穂の国とよはし芸術劇場PRAT&豊橋市内 鑑賞無料



スイッチ総研

穂の国とよはし 芸術劇場スイッチ

9月10日[土]・11日[日] 12:00-15:00開演(約30分程度)
総合演出:光瀬指絵/研究開発:大石将弘、光瀬指絵、山本雅幸、柴幸男(ままごと)、一般募集の参加者(15名程度)



ままごと 交響曲「とよはし」

(合唱付き)
9月22日[木・祝]・24日[土]・25日[日] 14:30開演(約2時間程度)出演:ままごと、一般募集の参加者(50名程度)

あいちトリエンナーレ2016 パフォーミングアーツ

ダニ・リマ

Little collection of everything

8月17日[水]・18日[木] 15:00開演

会場=PLATアートスペース



聞き手 中島晴美 穂の国とよはし芸術劇場PLAT シニアプロデューサー

小曽根真が幸せを語る

ふたりの出会いから生まれる音楽は、
私たちの至福の時間となる。

小曽根真[おぞね・まこと]／1983年にパーカー音楽大学ジャズ作・編曲科を首席で卒業。同年、米CBSと日本人初のレコード専属契約を結び、アルバム「OZONE」で全世界デビュー。2003年にグラミー賞にノミネート。以来、ソロライブをはじめゲイリー・パートン、ブランフォード・マルサリス、バキート・デリベラなど世界中のトッププレイヤーとの共演や、自身のビッグバンド「No Name Horses」を率いて、ジャズの最前線で活躍を続けている。また、クラシックにも本格的に取り組む、国内外の主要オーケストラと、バーンスタイン、モーツァルト、プロコフィエフ、ラフマニノフなどの協奏曲の演奏でも大きな注目を集めている。2014年にはニューヨーク・フィルのソリストに抜擢され、韓国、日本、ニューヨーク公演で共演。また、サンフランシスコ交響楽団にも招かれるなど、米国でも躍進を遂げている。近年は、作・編曲にも力を注ぎ、クリエイティブなオリジナル作品を次々と生み出している。2016年5月には、チック・コリアとの日本で初の全国デュオツアーを予定、夏はヨーロッパ各地でジャズ・カルテットのツアーを敢行予定。国立音楽大学ジャズ専修教授

中島——ジャンルが広がり、まさにジャズって感がありますが。

小曽根——できないことと遭遇することは最高の幸せです。ジャズは演目の難しいものが難易度が上がるのではなく、内面が直接形になって現れなくてはいけない。彫刻家が彫刻を、小説家が小説を書くように。クラシックも内面が大事ですけど、僕のように、ジャズミュージシャンとしてクラシックに入っていくことは、プロコフィエフなりラフマニノフなりモーツァルトが見ていた景色を自分なりに見せてもらう。具体的にはハーモニーやリズムですが、それは表面的なこと、もっと生理的な部分、音列を奏でた瞬間に。今まで見られなかった色とか匂いとか香りがある。それは、アメリカのハンバーガーしか食べてなかったのが、ヨーロッパやロシアで最高に美味しい料理を食べているような。それが何よりも大事なこと。だから、最初豊橋でやった時にスタインウェイをベースにしながらメロディーをグロトリアンでひいた「パンドラ」という曲は、今までにない幸せな瞬間だった。

中島——PLATも3回目になると、劇場の良さと、ちょっとこれは、ということも感じられると思うのですが。

小曽根——それはいいですね。その前にちゃんと弾けよということ。もし響かないホールだったらPA持ってきたい。ピアニストの場合は特に、行った先で全部ピアノが違うわけです。あえてそのピアノを弾くことは、そのピアノでどれだけ自分が出せるのかにかかってくる。それと向き合えるだけの心のあり方、それが大事だと思う。これが違うあれが違うと言い出すと、不幸になる。

中島——理解力というのは聞くとところからしか始まらないですよ。うまい役者というのは全員が聞き上手です。

小曽根——即興は相手を聞いていないと音を出せません。技を見せるみたいな演奏ではなく、その瞬間その瞬間二人でどうやって音楽を作っていくの?と、音を紡いでいくわけです。これは人と人が繋がっていく基本で、理想の形であり。音楽の場合、相手のためにやるのが結局自分の幸せという。ポジティブなエネルギーが音楽にはあると思うのです。

中島——私たちは「自己顕示欲を消せ!」と言われるけど、それは他者を認めるところからスタートしないと難しい。小曽根さんはもともとそういうふうにする人か?

小曽根——聞かないですよ。それが出来たらもつといいなと思うんですけどね。昔に比べるとだいぶ聞けるようにはなりました。ただ音楽の力があると思う。アートの存在理由はそこかなと思う。写真もそう、瞬間を切り取った1枚が何でこんなに人の心をつかむの?これ、理屈じゃないです。だけど瞬間をとらえた何かがあるわけで。それが結局人と人と繋いでいく、一番のツールだと思うのです。

中島——PLATで10月4日にゴンサロさんとピアノデュオの前に東京音楽ですね。向こうの制作さんに「いつも美味しいと持って行くわね」と言われたんですけど。

小曽根——ゴンサロは超人的にピアノが上手い人です。一緒にやったことはないから今回すごく楽しみ。だけど「絶対合うだろう」というのは演奏を聞くとわかる。何を大事に演奏しているかというのが見えるから。そうすると、お互いに持ってないものを相手を持っていて、でも繋がれるところはリズムで繋がる。すごく頭のいい人です。だから、コンセプトを考えた上で作曲もできる。普通、そういうふうには音楽を作るとつまらないのですが、面白いものを作ってしまう。だから天才なのだと思います。

10月4日[火] 19:00開演

出演=小曽根真、ゴンサロ・ルバルカバ

会場=PLAT主ホール

小曽根真 & ゴンサロ・ルバルカバ ピアノデュオ



PLAT主催公演情報

「わかつたさんのクッキー」



撮影・前澤秀登

8/17 [水]・8/18 [木] 15:00開演

あいちトリエンナーレ2016 パフォーミングアーツ
ダニ・リマ(ブラジル)

「Little collection of everything」 好評発売中

●会場=PLAT アートスペース ●料金=[日時指定・全席自由]一般3,000円/学生(25歳以下)1,500円/中学生以下500円※4歳以上有料、3歳以下膝上鑑賞無料★同時購入特典★本公演一般チケットと「わかつたさんのクッキー」のおとなチケットのセット券をご購入の方には、「わかつたさんのクッキー」公演当日にプチクッキーをプレゼント

8/27 [土] 15:00開演・8/28 [日] 11:00開演/15:00開演

8/29 [月] 14:00開演

おいしいおかしなおしばい

「わかつたさんのクッキー」

好評発売中

人気児童書「わかつたさん」シリーズが初の舞台化!子どもおとな一緒に楽しめる作品です。●原作=寺村輝夫(「わかつたさんのクッキー」/あかね書房より)●台本・演出=岡田利規●出演=椎橋綾那、古屋隆太、山崎ルキノ、笠木泉、佐々木幸子●会場=PLATアートスペース ●料金=[全席自由・日時指定・整理番号付]おとな3,000円、U24(24歳以下)1,500円、子ども(高校生以下)500円※4歳より入場可★同時購入特典★本公演おとなチケットとダニ・リマ「Little collection of everything」の一般チケットのセット券をご購入の方には、本公演当日にプチクッキーをプレゼント

9/3 [土] 12:30開演/17:30開演

平成二十八年度(公社)全国公立文化施設協会 主催 西コース

松竹大歌舞伎

中村芝雀改め五代目中村雀右衛門襲名披露

豪華俳優陣による襲名披露公演。当日はプラット茶屋や特製弁当の販売など、劇場が歌舞伎小屋に变身!●出演=松本幸四郎、芝雀改め五代目中村雀右衛門、中村梅玉ほか●会場=PLAT主ホール●料金=[全席指定]S席10,000円/A席7,000円/B席5,000円ほか

あいちトリエンナーレ2016特別連携事業

豊橋アーティストインレジデンス2016

「まちとつくる演劇」

PLATや周辺地域を巡りながら楽しめる新感覚の参加型演劇です。●会場=PLAT、豊橋市内●料金=無料(事前申込み不要)

9/10 [土]・9/11 [日] 12:00開演/15:00開演

スイッチ総研「穂の国とよはし芸術劇場スイッチ」

●作=スイッチ総研+穂の国とよはし芸術劇場スイッチ研究員【総合演出】光瀬指絵●研究開発/出演=大石将弘、光瀬指絵、山本雅幸、柴幸男(ままごと)ほか●会場=穂の国とよはし芸術劇場、水上ビル、開発ビルほか

9/22 [木・祝]・9/24 [土]・9/25 [日] 14:30開演

ままごと「交響曲『とよはし』(合唱付)」

●構成・演出=柴幸男●参加アーティスト=柴幸男(ままごと)、星野概念、青木拓磨、三浦千明、〇〇〇〇(以上、星野概念実験室)、安藤僚子(デザインムジカ)、名見耶郁り●会場=穂の国とよはし芸術劇場 PLAT、豊橋のまちなか各所★ボランティアスタッフ募集!★詳しくはお問合せください。

「松竹大歌舞伎」



中村梅玉

芝雀改め 中村雀右衛門

松本幸四郎

高校生と創る演劇
「女子にしか言えない
～プールの底で見た、わたしの幻燈～」



チケットの購入・お問合せ プラットチケットセンター

●劇場窓口・電話0532-39-3090[休館日を除く10:00-19:00]

●オンラインhttp://toyohashi-at.jp[24時間受付・要事前登録]

「かもめ」



満島ひかり

田中圭

佐藤オリエ

「スペシャルコンサート」



「ワークショップ縁日」



U24・高校生以下割引ご案内

●料金=U24[24歳以下対象]:公演ごとに指定する席種の半額/高校生以下:一律1,000円

●購入方法=各公演の一般発売初日から窓口にて取扱い。

●その他=本人のみ1公演につき1人1枚。枚数限定。座席の指定はできません。要・入場時身分証明書提示。

9/25 [日] 16:00開演

劇団四季ファミリーミュージカル

「王子とこじき」

●会場=PLAT主ホール●前売予定枚数終了※当日券の販売に関しては劇団四季名古屋オフィス(052-290-0800)へお問合せください。

10/1 [土] 19:00開演・10/2 [日] 14:30開演

PLAT小劇場シリーズ

劇団チョコレートケーキ

「治天ノ君」

●脚本=古川健●演出=日澤雄介●出演=松本紀保、西尾友樹、岡本篤ほか●会場=PLATアートスペース●料金=[全席自由・日時指定・整理番号付]一般3,000円ほか※木下歌舞伎「勸進帳」とのセット券あり(一般5,000円・枚数限定)

好評発売中

10/4 [火] 19:00開演

小曽根真 & ゴンサロ・ルバルカバ ピアノデュオ

●出演=小曽根真、ゴンサロ・ルバルカバ●会場=PLAT主ホール●料金=[全席指定]S席6,600円(ユース3,300円)/A席5,000円(ユース2,500円)

好評発売中

10/22 [土] 19:00開演・10/23 [日] 14:30開演

PLAT小劇場シリーズ

木ノ下歌舞伎「勸進帳」

●監修・補綴=木ノ下裕一●演出・美術=杉原邦生●出演=リー5世、坂口涼太郎、高山のえみ、岡野康弘、亀島一徳、重岡漢、大柿友哉●会場=PLATアートスペース●料金=[全席自由・日時指定・整理番号付]一般3,000円ほか※劇団チョコレートケーキ「治天ノ君」とのセット券あり(一般5,000円・枚数限定)

好評発売中

11/2 [水] 19:00開演・11/3 [木] 14:00開演

「星回帰線」

●会員先行=8月13日(土)●一般発売=9月3日(土)●作・演出=蓬萊竜太●出演=向井理、奥貫薫、野波真帆、高橋努、岩瀬亮、生越千晴、平田満●会場=PLAT主ホール●料金=[全席指定]S席8,000円/A席6,000円/B席4,000円ほか/U24(24歳以下)2,000円/高校生以下(B席)1,000円※各発売初日はお一人様一申込につき4枚まで。

11/5 [土] 13:00開演/19:00開演

11/6 [日] 13:00開演/17:00開演

高校生と創る演劇

「女子にしか言えない ～プールの底で見た、わたしの幻燈～」

「穂の国の『転校生』」、「赤鬼」に引き続き、プラットがお届けする「高校生と創る演劇」第3弾。2015年の市民と創造する演劇「話しグルマ」で近藤芳正の演出助手と脚本を手がけた山田佳奈を作・演出に迎え、東三河の高校生と共にオリジナル作品に挑みます。●会員先行=9月4日(日)●一般発売=9月18日(日)●作・演出=山田佳奈●出演=オーディションで選ばれた高校生●会場=PLATアートスペース●料金=[全席指定]一般2,000円/U24(24歳以下)1,000円/高校生以下500円



「立川志の輔 独演会」

11/11 [金] 19:00開演・11/12 [土] 13:00開演

劇団スーパー・エキセントリック・シアター(SET)

第54回公演ミュージカル・アクション・コメディ

「土九六村へようこそ」

三宅裕司、小倉久寛を中心に結成し、今年創立37年を迎えるSETがPLAT初登場!奇想天外な設定に社会性のあるテーマを取り上げ、笑い・音楽・ダンス・アクションをふんだんに盛り込んだ大エンターテインメントです。●会員先行=8月6日(土)●一般発売=8月21日(日)●脚本=福田哲平●演出=三宅裕司●出演=三宅裕司、小倉久寛ほか●会場=PLAT主ホール●料金=[全席指定]S席7,000円/A席6,000円/B席4,000円ほか※各発売初日はお一人様一申込につき4枚まで。

11/19 [土] 11:00開演/15:00開演

国民文化祭あいち2016市町村事業

プラットで親子わくわくからだ遊び!

「コンドルズの遊育計画」

NHKエデュケーショナルが提唱する「遊育(あそび)」と男性のみ学ラン姿でダンス、生演奏、人形劇、映像、コントを展開するダンス集団コンドルズのコラボ企画。0歳からおとなまで楽しめる観客参加型イベント。舞台上のほか、劇場各所に遊び場があり、開演前から楽しめます。●会員先行=8月20日(土)●一般発売=9月10日(土)●構成・映像・振付=近藤良平●出演=コンドルズ●会場=PLAT主ホール●料金=[全席指定]おとな3,000円/子ども(3歳~高校生以下)500円/3歳未満膝上鑑賞無料★ボランティアスタッフ募集!★詳しくは9月以降発表予定

12/2 [金] 18:30開演・12/3 [土]・12/4 [日] 13:00開演

「かもめ」

誰もが恋してむくわれない...普通の人々のドラマを描く(チェーホフの傑作「かもめ」)に、「おそろべき親たち」や、清水邦夫作「狂人をおもて往生とくとく」など、上質な作品を繰り出してきた気鋭の若手演出家・熊林弘高が豪華演技派キャストと挑みます。●会員先行=8月27日(土)●一般発売=9月11日(日)●作=アントン・チェーホフ●翻訳・上演台本=木内宏昌●演出=熊林弘高●出演=満島ひかり、佐藤オリエ、田中圭、中嶋朋子、坂口健太郎ほか●会場=PLAT主ホール●料金=[全席指定]S席8,000円/A席6,000円/B席4,000円ほか※各発売初日はお一人様一申込につき4枚まで。

12/5 [月] 18:30開演

「立川志の輔 独演会」

古典・新作を問わず落語に新しい息吹を吹き込む、大人気の立川志の輔による独演会です。●会員先行=10月8日(土)●一般発売=10月22日(土)●出演=立川志の輔●会場=PLAT主ホール●料金=[全席指定]一般4,000円/U24(24歳以下)2,000円/高校生以下1,000円※各発売初日はお一人様一申込につき2枚まで。

2017/1/14 [土] 16:00開演

「大阪フィルハーモニー交響楽団演奏会」

既存の音楽にとらわれず多方面で活躍する指揮者・大友直人が、若き天才ピアニスト・牛田智大と挑むはベートーヴェン。創立70周年を迎える大阪フィルの安定したアンサンブルにもご注目ください。●会員先行=9月17日(土)●一般発売=10月2日(日)●指揮=大友直人●ピアノ=牛田智大●曲名(予定)=L.V.ベートーヴェン:ピアノ協奏曲第5番変ホ長調作品73「皇帝」ほか●会場=ライブポートとよはし コンサートホール●料金=[全席指定]S席4,500円(ユース2,200円)/A席3,000円(ユース1,500円)

東三河の若手音楽家育成事業

プラットワンコインコンサート

「若い音楽家には活躍の場を、お客様にはより音楽を楽しめる機会を」と企画されたPLATオリジナルのワンコインコンサートです。500円で60分の贅沢なひとときをお過ごしください。●会場=PLATアートスペース●料金=[全席自由・整理番号付]各回500円

8/22 [月] 11:30開演

宮部まどか(ピアノ)

[「La Siesta! ~ピアノで感じるスペイン情緒趣味~」

10/24 [月] 14:00開演

会員・一般同時発売8月22日(月)

高柳鞠子(フルート)、三浦真理子(ピアノ)

好評販売中

試演会

最年少若手グループが30分の入場無料コンサートを行います。チケット不要です。●料金=無料(チケット不要)

9/1 [木] 13:00開演(予定)・15:00開演(予定)

出演=Ciliegio[チリエージョ]星野早紀(ソプラノ)、千賀さゆり(ソプラノ)、伴友香里(ピアノ)、松浦由紀(ピアノ)

スペシャルコンサート

井垣社太がアンコール出演!ピアノ2台・ピアニスト4人(8手)の連弾のコンサートです。●会員・一般同時発売8月22日(月)●出演=8hands[エイトハンズ]井垣社太ほか●料金=[全席自由・整理番号付]1,000円

10/3 [月] 16:00開演・19:00開演

夏休み子どもワークショップ

ワークショップ縁日

申込受付中

夏休み最後の日曜日にプラットで思いっきり遊ぼう!参加者同士で演劇づくりに挑戦したり、頭や体を使ったゲーム・ものづくりをします。●会場=PLAT創造活動室Aほか●対象=小・中・高校生(保護者見学可)●参加料=無料●定員=①30人程度(申込順)②なし(申込不要)●申込=プラットチケットセンター

8/28 [日] 10:00-15:00

①「えんげきとあをぼう」10:00-12:00

②「げきじょうであをぼう」13:00-15:00

シェイクスピア没後400年記念

シェイクスピア講座

申込受付中

日本の第一線で活躍する演劇人が、シェイクスピアの代表作『十二夜』について語るレクチャーです。●会場=PLATアートスペース●参加料=500円●申込=プラットチケットセンター(電話0532-39-3090)

9/2 [金] 18:30-20:00

「十二夜」~シェイクスピアと歌舞伎~

講師=松井今朝子(作家)、松岡和子(翻訳家・演劇評論家)



芸術文化アドバイザー

平田 満の
ちよこつとエッセイ

第18回「オリンピック」

8月5日からリオデジャネイロでオリンピックが開催されます(これを書いているのは6月なので何もなければ、ということですが…)。そしてうれしいことに、豊橋出身の鈴木亜由子選手が5000mと10000mの陸上日本代表として出場します!地元の陸上クラブで陸上を始められたようですが、高校も大学もいわゆるスポーツ有名校出身ではないのに、小柄な体で大活躍している鈴木さんにさすががさしさを覚えます。

私も小学校から高校まで、運動神経もないのにいろんなスポーツの大会で、補欠、応援、選手、キャプテンなどを経験しました。大した活躍はしていませんが、たまにのファインプレーや勝利の瞬間は、快感とともに脳裏に焼き付いています。同時に、人生で初めて味わう悔しさや情けなさも…。大袈裟ですが、まさに《生きている実感》がありました。そして、この瞬間は二度と再び巡ってこないという予感も感じていました。

スポーツは多くの人に感動を与えます。勝者にも敗者にも生きるよろこびと美しさがあり、ライバルとのドラマチックな戦いがあり、仲間との熱い連帯やサポートする人たちとの温かい交流があります。それもこれも肉体というかけがえのない、はかないものが、一生涯のその瞬間に力を出し切る姿に心を打たれるからなのではないでしょうか。

ある意味では『舞台』も同じです。二度と同じ瞬間はありません。形にも残りません。スポーツも舞台もつまるところ人間の身体しかありません。だからこそ美しく、さわやかで、感動的で、ときに哀しく、胸を打たれるのでしょう。

金銭疑惑、ドーピング、競技場やロゴマーク問題に揺れるオリンピックですが、今度のリオでは、鈴木亜由子さんはじめ、選手たちの全力を出し切るさわやかな姿に感動したいと思っています。勝っても負けてもいいじゃないか!



劇団四季「王子とこじき」撮影・下坂敦俊

- 9 SEPTEMBER**
- 1 [木] プラットワンコインコンサート関連企画
Cillegio(チリエージョ)無料コンサート●PLATアートスペース
 - 2 [金] シェイクスピア没後400年記念 シェイクスピア講座『十二夜』
～シェイクスピアと歌舞伎～●PLATアートスペース
 - 3 [土] 松竹大歌舞伎 中村芝雀改め中村雀右衛門襲名披露●PLAT主ホール
 - 10 [土] さくらピアノ教室 発表会●PLATアートスペース
 - 9 [金]—11 [日] 小林賢太郎新作コント公演 カジャラ#1『大人たるもの』
●PLAT主ホール
 - 13 [火]—15 [木] 豊橋演劇鑑賞会 第256回例会 劇団NLT公演『OH!マイママ』
●PLAT主ホール
 - 19 [月] 豊橋おやて劇場協議会 高学年例会『新・動物農場』●PLAT主ホール
 - 22 [木]—25 [日] 第11回お店をつくらう!～小さなまちづくりプロジェクト～
●PLATアートスペース
 - 25 [日] 劇団四季ファミリーミュージカル『王子とこじき』●PLAT主ホールスペース



高柳鞠子 三浦真理子

- 10 OCTOBER**
- 1 [土] ブラジリアンアートフェスティバル●PLAT主ホール
 - 1 [土]—2 [日] PLAT小劇場シリーズ 劇団チョコレートケーキ『治天ノ君』
●PLATアートスペース
 - 3 [月] プラットワンコインコンサート番外編
8hands(エイトハンズ)井垣壮太スペシャルコンサート●PLATアートスペース
 - 4 [火] 小曾根真&ゴンサロ・ルバルカバ ピアノデュオ●PLAT主ホール
 - 8 [土] 辻友香里 サクソフォンリサイタル●PLATアートスペース
 - 9 [日] 第3回 Dance de Yuina Le Reve主催ダンス公演
Magic BoxⅢ～なないろの道～●PLAT主ホール
 - 10 [月] 秋の社交ダンスパーティー in PLAT●PLATアートスペース
 - 22 [土]—23 [日] PLAT小劇場シリーズ 木ノ下歌舞伎『勸進帳』
●PLATアートスペース
 - 24 [月] プラットワンコインコンサート 高柳鞠子・三浦真理子●PLATアートスペース

SAN-EN 知識製造業
http://www.san-en.co.jp

魚伊 有限会社 魚伊
電話 52-5256

株式会社 竹尾建築設計事務所
代表取締役 竹尾 誠
豊橋事務所/豊橋市平川南町91-2 千440-0035 Tel.0532-62-1331(代) Fax.0532-62-1332
浜松事務所/浜松市東区流通元町13 千435-0007 Tel.053-422-3628(代)

Gallery 48 呉服町48 TEL.54-4848

グロリアンピアノ地域特約店
白羽楽器 株式会社
電話053-464-3015

竹内産婦人科
産婦人科 婦人科(不妊治療)
豊橋市新本町23 電話 52-5256

内科・消化器科・循環器科・眼科・整形外科・脳神経外科・リハビリテーション科
医療法人 羔羊会 弥生病院
日本医療機能評価機構認定 渡辺のり子(東高2回生)
〒441-8106 豊橋市弥生町字東豊和96 電話(大代)48-2211

YMバレーカンパニー
218610

看板広告 アラキスタジオ
豊橋市上伝馬町16 電話52-5586番

本と文具なら
精文館書店
TEL.54-2345

医療法人慈豊会
大島整形外科クリニック 院長 大島 毅
東田町井原39の7(市赤赤岩口終点前) 電話62-5511(代)

ONOCOM 株式会社 オノコム

株式会社 谷山建築設計事務所
豊橋市西羽田町183 http://taniyama-archi.com

外科・内科・胃腸科・麻酔科・消化器科・呼吸器科
伊藤医院 伊藤之一 伊藤文二
豊橋市小池町字原下35 電話45-5283(代)

創業文政年間 **巖さく宗**
豊橋市新本町40 電話52-5473番

豊橋銀行協会 (順不同)
三菱東京UFJ銀行 みずほ銀行 静岡銀行 名古屋銀行
三井住友銀行 三井住友信託銀行 清水銀行 第三銀行
十六銀行 愛知銀行 中京銀行 大垣共立銀行

御茶屋菓子専門店
若松園 創業江戸
御菓子司

調理と製業のおいしい資格。
豊橋調理製菓専門学校
豊橋市八町通一丁目22-2 TEL53-2809

気まぐれコンサート
事務局/0532-62-9259 (小川恵司)

安心・安全な地下駐車場
パ・ガ500
ソウの親子の看板が目印
プラット主ホール・アトスペース公演等へのお客様は30分150円を30分100円(上限4時間まで)に割引します。

整形外科・リハビリテーション科・リウマチ科・麻酔科
塩之谷整形外科
院長 塩之谷 昌 副院長 塩之谷 香
豊橋市植田町関取54 電話0532-25-2115(代)

豊橋名産 **舟ちくわ**

井上皮フ科クリニック
診療時間 月・火・木・金 10:00~13:00 16:00~19:00
土 10:00~14:00 休診日=水・日・祝
電話0532-55-7007 愛知県豊橋市向山町字中畑13-1マイルストーン1F

プラス・ワンの付加価値をお客様に提供いたします。
共和印刷株式会社
豊橋市小池町36番地の1 TEL.46-3281 FAX.46-3285

整形外科・皮膚科・リウマチ科・リハビリテーション科
医療法人 大岩整形外科・皮フ科
院長 大岩俊久 豊橋市大橋通二丁目115 電話55-2100

伝統的工芸品豊橋筆
書道用品専門店 **高誠堂**
豊橋市呉服町四拾四番地 電話52-5514

本の豊川堂
本店54-6688番/カルミア店55-2810番/アビタ店54-6351番

練物専科 **たけなご**
ココラフロント ホテルアークリッシュ 1F

ISO9001 ISO14001 愛知ブランド企業 認証・認定取得
株式会社 三光製作所
三光精密工業株式会社
豊橋市佐藤一丁目12番地の3

Storyteller tells the Story
物語コーポレーション

生活にファインクオリティ
sala

広告募集

チケットの購入・お問合せ

プラットチケットセンター

電話・窓口
0532-39-3090 [休館日を除く10:00-19:00]
オンライン
http://toyohashi-at.jp [24時間受付・要事前登録]

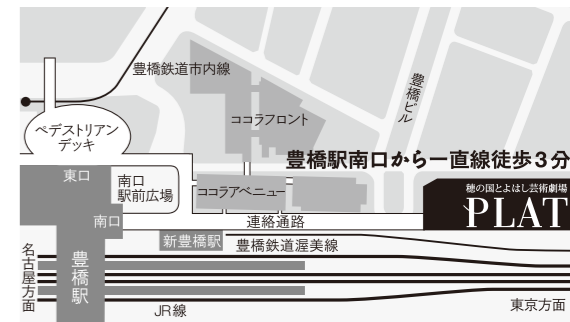


プラットフレンズ募集
入会金・年会費無料

- 特典
- 1 公演情報をメールでご案内します。
 - 2 インターネットでチケット予約ができます。
 - 3 主催公演のチケットを一般発売に先がけてご予約できます。
- ※劇場窓口またはホームページから登録いただけます。

U24・高校生以下割引ご案内

ほぼすべての財団主催公演に、若い人にお得な料金を設定しています。
料金
U24[24歳以下対象]:公演ごとに指定する席種の半額
高校生以下:一律1,000円
購入方法
各公演の一般発売初日から窓口にて取扱い。
その他
本人のみ1公演につき1人1枚。枚数限定。
座席の指定はできません。要・入場時身分証明書提示。



〒440-0887 愛知県豊橋市西小田原町123番地
電話=0532-39-8810[代表]
開館=9:00-22:00 休館日=第三月曜・年末・年始。
第三月曜が祝日の場合はその翌平日。
豊橋駅(JR東海道新幹線、東海道本線、名古屋鉄道)、
新豊橋駅(豊橋鉄道渥美線)直結。豊橋駅南口から徒歩3分。
※駐車場はありません。公共交通機関をご利用いただくか、
お近くの公共駐車場等をご利用ください。

穂の国とよはし芸術劇場 PLAT